

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 豊橋市立福岡小学校  
種 別  保育園・幼稚園      小学校      小中一貫教育  
 中学校      中高一貫教育      高等学校  
 教員養成      技術/職業教育  
 特別支援学校      その他 (                    )  
所在地 〒 441-8063  
豊橋市橋良町字平野1番地の1  
E-mail fukuoka-e@toyohashi.ed.jp  
Website http://www.fukuoka-e.toyohashi.ed.jp/  
児童生徒数 男子 321名     女子 300名     合計 621名  
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( 地域 )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

#### ① 老人クラブや地域各種団体との交流

今年も、地域の各種団体の方々の協力を得て、1・2年合同で七夕集会を行った。この集会は、福岡校区保護司会の社会を明るくする運動の一環として毎年実施しており、今年で37回目を迎えた。更生保護女性会、PTA総務部や学年委

員、おやじの会等、多くの方々のご協力により、福岡小の伝統行事として定着している。前日準備では、百本もの竹を切ってきてトラックで運び込み、それを、三百本分の小さな笹竹に切るところまでやってくださっている。笹飾りは、更生保護女性会の方々の前もってたくさん作ってくださっている。子どもたちは、愛情のたくさん詰まった笹竹と笹飾りに、自分が作った笹飾りや短冊をつけ、大切に家に持ち帰る。こうした校区の方々の、子どもたちを思う気持ちや、健やかに成長してほしいという願いのおかげで、温かい雰囲気の中で、毎年盛大に行うことができ、世代を超えた交流を図ることができている。



また、1年生は、生活科「昔の遊びに挑戦」の学習で、日本に伝わる昔の遊びについて、学校図書館司書のブックトークを聞いたり、校区老人会の皆さんに直接教えてもらったりしながら、お手玉やこま回し、竹とんぼ、めんこ、あやとりなどの遊び方やこつを学んだ。お年寄りとのふれ合いや昔ながらの文化に触れることで、地域に対する愛着を深めることができた。さらに今年は、こま回しで、ペア学年の6年生に挑戦することにした。6年生も、1年生の時に教えてもらったことを思い出しながら休み時間に何度も何度も練習して技を磨いた。「こま回し対決」の当日は、日ごろはお世話してもらっている側の1年生も、6年生に負けまいと奮闘し、大いに盛り上がった。この活動を通して、学年間の交流やペアの相手との絆も深めることができた。



## ② 校区に住む農家の方や地域各種団体との連携

5年生は、総合的な学習と社会科を関連させて、バケツを使った米作りを今年も行った。校区に住む農家の方を講師として招き、田植えの時期には、土づくりや苗の植え方、稲の世話の仕方について学んだ。また、中干しの時期には、中干しをする意味や脱穀やもみすりの仕方について学んだ。稲刈りが終わると、わらを再利用してミニほうきを作ったり、縄をなつてリースを作ったりした。学習のまとめとして、自分たちが育てたもち米で、もち料理を作って、収穫の喜びを味わうこともできた。



さらに、社会科の「伝えたい！米作りのひみつ！」では、米作りについての調べ学習だけでなく、子どもの知りたいことを解決するために、農林水産事務所の方や校区の農家の方などを講師に招き、実際に話を聞くなかで、現在の米作りにおける問題点についても学びを深めた。さらに、作り手の思いを直接聞くなかで、日本の主食である米への愛着を深め、農家の方の苦労や努力、昔の人の知恵のすばらしさを学ぶことができた。思いの高まった子どもたちは、作り手

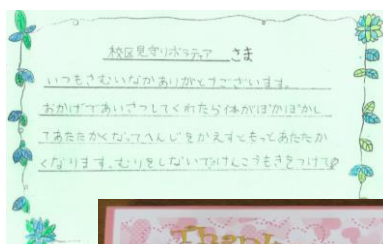


の思いを広げていくために、自分たちにできることは何かを考えた。話し合った結果、ポスターやリーフレットなどを作り、それを使って、「福岡小の米消費量を上げよう」と、各学級に呼びかけることになった。体験的な活動だけでなく、主体的な学びを通して、子どもたちは、日本の農業の問題点という大きな視点でとらえがちな問題を、地域の農家の人々の悩み事としてとらえ、さらに、自分の食生活や学校給食の問題点という身近な視点で米作りを見つめ直すことができた。

### ③ ありがとうの気持ちを伝えよう

福岡小学校では、2月をありがとう月間と定め、1年間お世話になった方々に感謝する取り組みを学級活動や委員会活動のなかで行っている。PR委員会は、今までお世話になった6年生に感謝の気持ちを伝える「ありがとうメッセージ」を全校に募集した。集まったメッセージを、委員会できれいに台紙に貼り付け、職員室前に掲示している。また、計画委員会は、「感謝の手紙」を全校に募集した。手紙を書く前に、校区の見守りボランティア（登校時に安全指導を行っている）や図書館ボランティア（読み聞かせや図書室の本の整備や飾りつけを行っている）、ベルマークボランティアの方々など、自分がどんな場面で、どんなことでお世話になっているかを学級活動で振り返る時間を取り、その後、一人一人が2～3枚手紙を書いた。集まった手紙は、委員会でファイルに綴じ、表紙を付けて、それぞれの団体に手渡された。

子どもたちは、1年間の学校生活を振り返り、お世話になった人へ感謝の気持ちを表現することを通して、地域の方々や上級生、友達に支えられていることに気づくことができた。また、感謝の気持ちを伝え合うことを通して、地域の方々や友達との心の絆を深めることにもつながった。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）